

IR NAVI

アイアール
ナビ
vol.22

株主の皆様へ／取締役社長 小林喜光

●第9期中間決算のご報告

もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス
KAITEKIな仲間たち Vol.01

“KAITEKI実現”

チャレンジ!! KAITEKI

低温排熱や太陽光エネルギーを
有効に利用する新素材「AQSOA」



証券コード 4188

株主の皆様へ

 株式会社三菱ケミカルホールディングス

第9期 中間期のご報告

平成25年4月1日 ▶ 平成25年9月30日

株主の皆様へ



取締役社長

小林 喜光

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期（平成25年4月1日から9月30日まで）における当社グループの事業環境は、機能商品分野及び素材分野においては、海外における景気回復の遅れや先行きに対する懸念を背景に、中国や欧州等の海外需要には本格的な回復がみられませんでした。国内では、金融・財政政策等により、円高が修正され輸出環境が改善したことに加え、需要が緩やかな回復傾向にあり、持ち直しの動きがみられました。また、ヘルスケア分野においては、海外に導出した製品は好調に推移したものの、国内ではジェネリック医薬品の市場拡大等による影響を受け、環境は厳しさを増す傾向にあります。

当上半期の連結業績の詳細は次頁以下に記載の通りですが、売上高は1兆6,115億円となり、利益面では、営業利益は513億円、経常利益は502億円、当期純利益は273億円となりました。当期の中間配当金につきましては、当上半期の連結業績、中長期的な安定配当等を総合的に勘案し、1株につき6円とさせていただきます。

当上半期の連結業績は、一部石油化学関連製品の需要回復が鈍化したことなどの影響を受け、期初の想定に対しては低調に推移しましたが、当社グループは、中期経営計画「APTSIS*15」のも

と、グループの協奏による総合力のさらなる強化を進めるとともに、シェールガス革命などによる事業環境の激しい変化に対応する戦略的諸施策や国際競争力を有する事業の強化・拡充など事業構造改革を実行し、企業体質の強化を図っております。また、当社は、収益の追求にとどまらず、環境問題や社会問題の解決に貢献しながら持続的に発展することで、「KAITEKI」、すなわち、人間にとっての心地よさに加え、社会にとっての快適、地球にとっての快適を併せ持った真に持続可能な状態を実現することを目指しております。今般、KAITEKIの実現に率先して取り組む企業姿勢を社会に発信していくこととし、コーポレートブランドを「THE KAITEKI COMPANY」と決めました。今後は、このコーポレートブランドのもと、KAITEKIの実現に向けた諸施策をより一層推進するとともに、社会への浸透を目指してまいります。

さらに、最優先課題である安全管理の徹底はもとより、コンプライアンスやリスク管理の重要性について徹底を図ってまいります。当社グループは、これらの経営諸課題にグループの総力を挙げて対処し、企業価値・株主価値の一層の向上に努めてまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年12月

CONTENTS

- 株主の皆様へ.....1
- 連結業績の概要.....2
- セグメント別業績.....3
- 各事業会社の活動・トピックス.....5
- もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス KAITEKIな仲間たち Vol.01.....7

- “KAITEKI実現” チャレンジ!! KAITEKI.....9
- 財務諸表の概要.....11
- 株式の状況.....13
- 会社概要.....14

※「APTSIS」とは、**A**gility（俊敏に、とにかく速く）、**P**rinciple（原理原則・理念の共有）、**T**ransparency（透明性・説明責任・コンプライアンス）、**S**ense of Survival（崖っぷちにあるという意識・危機感）、**I**nternationalization（グローバル市場でのパフォーマンス向上）、**S**afety, Security & Sustainability（製造における安全、品質における安心、情報セキュリティ及び環境対応）のそれぞれの頭文字をとった造語で、当社グループの行動指針です。

連結業績の概要

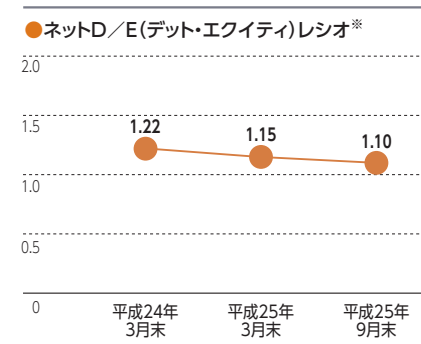
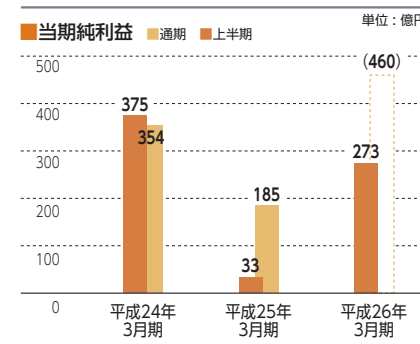
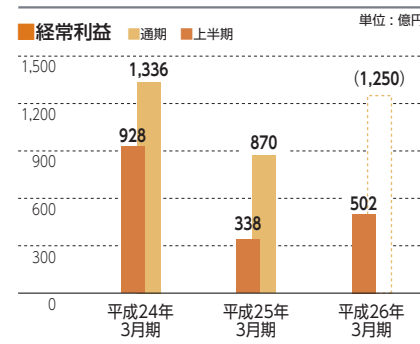
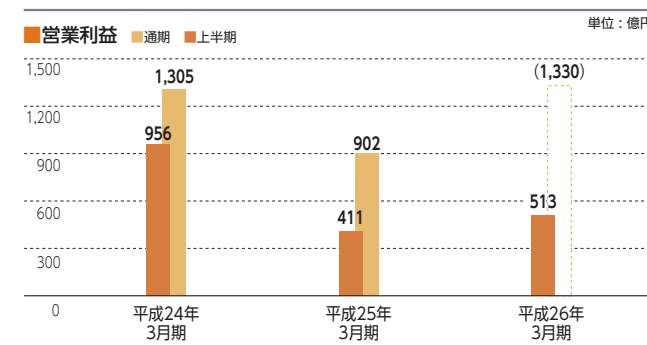
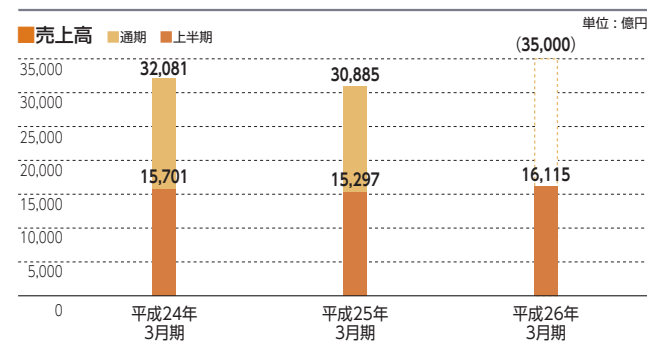
輸出環境の改善に加え、国内需要が回復傾向にある中、増収・増益となりました。

輸出環境が改善し、内需が回復するなど、事業環境に持ち直しの動き

当上半期は、円高が修正され輸出環境が改善したことに加え、国内需要が緩やかな回復傾向にあるなど、事業環境に持ち直しの動きがみられました。当上半期の連結業績は、売上高は1兆6,115億円（前年同期比817億円増）となり、利益面では、営業利益は513億円（同102億円増）、経常利益は502億円（同163億円増）となり、当期純利益は273億円（同239億円増）となりました。




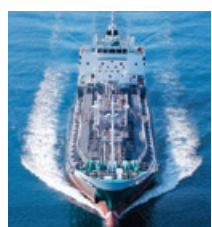
ネットD/Eレシオが0.05ポイント改善

総資産は、円高の修正に伴い海外連結子会社の資産の円貨換算額が増加したこと等により3兆3,735億円（前期末比657億円増）となりました。負債は、有利子負債は増加したものの、前期末日が休日であったことによる営業債務の減少等により、2兆1,003億円（同41億円減）となりました。この結果、ネットD/Eレシオは1.10となりました。



※ネットD/Eレシオとは、以下の数式によって算出される比率のことで、財務体質の健全性を表す指標の一つです。数値が小さいほど健全性が高いことを示します。
ネットD/Eレシオ = {有利子負債（割引手形を含む） - （現金・現金同等物+手元運用資金残高）} ÷ 自己資本
※（ ）内の数値は、平成25年10月31日の第2四半期決算発表時点での予想数値であります。

セグメント別業績

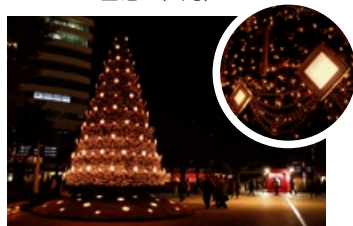
	単位:億円				三菱化学	田辺三菱製薬	三菱樹脂	三菱レイヨン		
機能商品	<p>エレクトロニクス・アプリケーションズ</p> <p>売上高 1,181 (前年3月期: 604) △577 営業利益 0 (前年3月期: 13) △13</p> <p>売上高構成比 3.5%</p>	<p>売上高 1,181 (前年3月期: 604) △577 営業利益 0 (前年3月期: 13) △13</p>	<p>デザイン・マテリアルズ</p> <p>売上高 6,897 (前年3月期: 3,404) △3,493 営業利益 225 (前年3月期: 104) △121</p> <p>売上高構成比 22.7%</p>	<p>売上高 6,897 (前年3月期: 3,404) △3,493 営業利益 225 (前年3月期: 104) △121</p>					<p>エレクトロニクス・アプリケーションズ 《売上高》568億円(36億円減) 記録材料…DVD等の販売数量の減少、外付けハードディスクの販売価格の低下 電子関連製品…半導体向け精密洗浄・ウエハー再生等の事業が低調 情報機材…OPC、トナーの需要は概ね横ばい 《営業損益》△26億円(12億円損失増) 販売価格の低下により減益</p>	<p>デザイン・マテリアルズ 《売上高》3,659億円(255億円増) 食品機能材…販売が概ね順調に推移 電池材料…自動車用電池向けの販売数量が増加傾向 樹脂加工品…タッチパネル向けフィルムの販売が好調に推移 複合材…アルミナ繊維等の販売が順調に推移 《営業利益》224億円(119億円増) 販売数量の増加等により増益</p> 
ヘルスケア	<p>ヘルスケア</p> <p>売上高 5,143 (前年3月期: 2,507) △2,636 営業利益 749 (前年3月期: 360) △389</p> <p>売上高構成比 15.8%</p>	<p>売上高 5,143 (前年3月期: 2,507) △2,636 営業利益 749 (前年3月期: 360) △389</p>						<p>ヘルスケア 《売上高》2,547億円(39億円増) 医薬品…抗ヒトTNFαモノクローナル抗体製剤「レミケード」等の売上げが増加 診断製品及び臨床検査…前年同期並み 製剤材料…クオリカプスの連結子会社化により新たに売上げを計上 《営業利益》351億円(8億円減) 円安による輸入品の仕入原価増加等により減益</p> 		
素材	<p>ケミカルズ</p> <p>売上高 9,036 (前年3月期: 4,436) △4,600 営業利益 1 (前年3月期: 53) △52</p> <p>売上高構成比 28.5%</p>	<p>売上高 9,036 (前年3月期: 4,436) △4,600 営業利益 1 (前年3月期: 53) △52</p>	<p>ポリマーズ</p> <p>売上高 6,756 (前年3月期: 3,419) △3,337 営業利益 28 (前年3月期: 1) △27</p> <p>売上高構成比 23.5%</p>	<p>売上高 6,756 (前年3月期: 3,419) △3,337 営業利益 28 (前年3月期: 1) △27</p>					<p>ケミカルズ 《売上高》4,607億円(171億円増) 基礎石化製品…エチレンの生産量51万8千トン(5.1%減) 合成繊維原料…販売数量が増加 炭素製品…原料炭価格の低下に伴うコークスの販売価格の低下により売上げが減少 《営業利益》1億円(55億円増) 原料と製品の価格差の改善及び固定費の減少により増益</p> <p>ポリマーズ 《売上高》3,801億円(382億円増) 合成樹脂…原燃料価格の上昇を受け販売価格を是正 《営業損益》△10億円(39億円減) MMAモノマー等の原料と製品の価格差の縮小等により減益</p> 	
その他	<p>その他</p> <p>売上高 1,869 (前年3月期: 924) △945 営業利益 64 (前年3月期: 25) △39</p> <p>売上高構成比 5.7%</p>	<p>売上高 1,869 (前年3月期: 924) △945 営業利益 64 (前年3月期: 25) △39</p>							<p>その他 《売上高》930億円(5億円増) エンジニアリング事業及び物流事業…外部受注が減少 《営業利益》4億円(21億円減) 外部受注の減少等により減益</p> 	

()内の数字は対前年同期比

三菱化学

機能商品

- 三養社（韓国）と共同で、韓国にイオン交換樹脂を製造するための合併会社を設立することに合意（7月）
- パイオニアと共同で、有機EL照明パネル販売のための共同事業会社を設立し（6月）、世界初の発光層塗布型有機EL照明モジュールのサンプル出荷を開始（9月）



六本木ヒルズのクリスマスイルミネーションに有機EL照明パネル「VELVE」が採用されました。

ヘルスケア

- 三菱化学メディエンスが、北京大学第三医院内に共同でバイオアナリシス・サービス・ラボを開設し、薬物動態試験等を実施することに合意（8月）

素材

- 機能性樹脂事業の基盤強化と拡大を図るため、北米及び欧州において、それぞれコムトレックス社（米国）及びテッセンデルロ社（ベルギー）から樹脂コンパウンド事業を買収（4月、6月）
- 旭化成ケミカルズとともに一体運営している水島地区のエチレンセンターについて、最適生産体制による効率的な事業運営を確立するため、三菱化学のエチレン設備に集約し、同設備を共同運用すること等を前提に検討を進めることに合意（8月）

田辺三菱製薬

ヘルスケア

- 2型糖尿病治療薬「TA-7284」について、国内での製造販売の承認を申請（5月）
- 選択的β1遮断剤「メインテート錠」について、頻脈性心房細動の効能・効果の追加に係る承認を取得（6月）
- 勃起不全治療薬「TA-1790」について、導出先のヴィーヴァス社（米国）が、欧州における販売承認を取得（6月）
- 事業・構造改革の一環として、田辺三菱製薬工場の5製造拠点を2拠点に集約することを決定するとともに、同社の足利工場を譲渡する旨の基本合意書をシミックホールディングスと締結（8月）

三菱樹脂

機能商品

- 三菱樹脂アグリドリーム及び地球最適化インスティテュートが、オーストラリア・ビクトリア州第1産業省の関連会社と共同で、同州での太陽光利用型植物工場の実証試験を開始（4月）
- 平塚工場において、アルコール飲料や調味料等の容器として使用されるハイバリアPETボトルの製造ラインを新設することを決定（4月）



実証試験で設置される
葉菜用養液栽培システム「ナッパerland」

- エンジニアリングプラスチック製品の製造・販売を行うクオドラント社（スイス）の持株会社であるアクアミット社（オランダ）を完全子会社化（5月）
- 中国において、農業ハウス用高性能フィルムの製造・販売を行う無錫菱樹農用薄膜材料科技社（中国）の工場を竣工（8月）



工場竣工式の様子

三菱レイヨン

機能商品

- たばこフィルター用のアセテート・トウの製造事業を行う富山フィルタートウの株式の一部をダイセルに譲渡し、同事業の合併化を完了（5月）
- 三菱レイヨン・テキスタイルが、高い吸湿性をもちながら、べたつきや蒸れ感を抑える衣料用素材「キスト」を開発（5月）
- 浙江清華長三角研究院（中国）と共同で、産業排水処理技術の研究を行うことを目的として、「浙江清華長三角研究院—MRC膜分離水処理技術研究センター」を設立（6月）
- アスリート向けゴルフクラブシャフト「Diamana」Wシリーズの販売を開始（9月）



「Diamana」Wシリーズ

三菱ケミカルホールディングスグループのコーポレートブランドの決定について

新コーポレートブランドロゴ

THE KAITEKI COMPANY

当社は、KAITEKIの実現を率先して進めていく企業としての姿勢と決意をこれまで以上に明確にし、KAITEKIのコンセプトを社会において広くご認識いただくために、「THE KAITEKI COMPANY」をコーポレートブランドとして推進していくことを決定しました。

※「Good Chemistry for Tomorrow」は、グループ理念として従来通り変更はありません



「THE KAITEKI COMPANY」のデビューとなる広告を新聞に掲載するとともに、海外で放映中のテレビCMを今回制作した新CMに切り替え、国内（BS放送）での放映も開始しました。（11月）

太陽日酸と資本業務提携契約を締結

当社は、産業ガスメーカーとして国内最大手である太陽日酸との間で、産業ガス関連事業における協業や販売チャネルの相互活用等によるシナジー創出による企業価値の向上を図るため、資本業務提携契約を締結し、太陽日酸への当社グループの出資比率を最大27%程度に高めることを発表しました。（9月）

KAITEKIな
仲間たち

Vol.01

持株会社である当社とともに当社グループの事業の中核を担う、
基幹事業会社を順番にご紹介いたします。

三菱化学

会社名 三菱化学株式会社
本社所在地 東京都千代田区丸の内一丁目1番1号 (パレスビル)
発足 1994年(設立:1950年)
資本金 500億円
取締役社長 石塚 博昭

化学で豊かな明日に貢献します

三菱化学は、「Good Chemistry for Tomorrow/人、社会、そして地球環境
のより良い関係を創るために。」というグループ理念に基づき、「情報電子」
「暮らし(食・水・住・衣)」 「環境」 「医療」 「エネルギー」 など皆様の生活に深く関
わる製品を提供し、「世界初」「グローバルシェアトップ」「オンリーワン」などの
価値ある技術・製品・サービスを創造し続けています。



自動車の軽量化・ 燃費向上に貢献

自動車分野において国内シェア
No.1を誇るポリプロピレン。自動車
用のバンパーやインストルメントパ
ネル等各種部品に採用されており、
自動車の軽量化・燃費向上に大きく
貢献しています。



生活に欠かせない ペットボトルの素材

ポリエステル繊維、PET樹脂など
の主原料であるテレフタル酸。
韓国、インドネシア、インド、中国に
て生産を行っています。また、中
東、東ヨーロッパなどへは技術ライ
センスを提供。グローバルなビジ
ネスを展開しています。



情報家電の必須アイテム

コンピュータのモニター、スマートデバイス
など、用途が急拡大するフラットパネルディ
スプレイ部材。「OPLフィルム」やカラーレジス
ト等が表示機器の高機能化を支えています。



安全で美味しい食品のために

天然油脂と砂糖を原料とする、世界No.1シェアの
食品用乳化剤「リョートーシュガーエステル」。缶
コーヒーのほか、チョコレート、ガム、アイスクリーム
などの加工食品の品質向上に用いられています。



高品質な製鉄を支える

溶鉱炉法による製鉄に欠かせないコークス。
何種類もの石炭をブレンドしてコークス炉の
中で約1200℃の高温で乾留(蒸し焼き)する
ことによって最適なコークスが製造されます。

三菱化学、田辺三菱製薬、三菱樹脂及び三菱レイヨンの4つの

KAITEKIへの挑戦

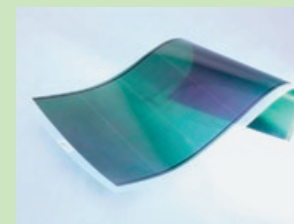
食の安全・安心、安定供給を目指して

異常気象など環境の変化が懸念される中でも、外
的環境の影響を受けにくく、安定した食料供給を
実現できる、「コンテナ野菜工場」を開発し、販売し
ております。



太陽光発電をもっと身近に

従来の太陽光パネルと比べ、軽量で柔軟性が高く、
さまざまな場所や用途で活用できます。また、塗布



型有機薄膜太陽
電池の開発に成
功し、製造時の環
境負担を軽減しま
した。実用化に向
けさらなる研究を
進めています。

2020年 オリンピック・パラリンピック東京開催決定!

いま注目される 三菱化学メディエンスの ドーピング検査



WADA
認定証

2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の東京開催決定は、
今年もっとも明るいニュースの一つとなりました。

三菱化学のグループ会社でヘルスケア関連事業を展開する、三菱
化学メディエンスのアンチドーピングラボラトリーは、世界ドーピング
防止機構(WADA)により日本で唯一公認された分析機関として、日
本やアジア諸国で開催されるスポーツ競技会及び競技会外の検体
分析を行っています。三菱化学メディエンスは、ドーピング検査を通
じて、スポーツ界の発展に寄与し、ドーピング防止活動において重
要な役割を担っており、また、同社は、最先端の分析技術で2020年
東京オリンピック・パラリンピック競技大会にも貢献します。

スポーツ界の発展とともに、ドーピング手法も多様化、巧妙化して
おり、分析機関も常に分析技術の開発と設備の増強が必須となっ



アンチドーピングラボラトリー

ています。民間企業としてWADA
公認のドーピング分析施設を運
営するのは、世界でも数少ない
例とされますが、三菱化学メ
ディエンスは、これからもドー
ピング防止活動とスポーツ界の健
全な発展に貢献していきます。

“KAITEKI実現” 「協奏による、さらなる成長・創造と飛躍」

KAITEKIとは、時を超え、世を超え、人と社会と地球の心地よい状態が持続することです。そのKAITEKI実現に向けて当社グループは取り組みを行っています。

カナダのメディカゴ社 を子会社化

当社グループの田辺三菱製薬は、本年9月、フィリップ・モリス・インベストメンツ社(オランダ)と共同で、メディカゴ社(カナダ)を買収しました。

メディカゴ社は、カナダのバイオ医薬品会社で、独自性の高い新規ワクチン技術をもっています。

この技術は、植物由来ウイルス様粒子(VLP)技術と呼ばれるものです。VLPワクチンは、ウイルスと同様の外部構造をもつため、高い免疫獲得効果が期待される一方で、遺伝子情報をもたないため体内のウイルス増殖がないという安全性に優れた性質をもちます。

ワクチンは世界的に成長が期待されている領域であり、田辺三菱製薬がグローバル市場への展開をめざす領域のひとつです。

今後は、メディカゴ社のVLP技術を活用して各種ワクチンの研究開発に取り組んでいきます。



メディカゴ社商業スケール製造建屋(アメリカ、ノースカロライナ州)



VLPを産生する植物

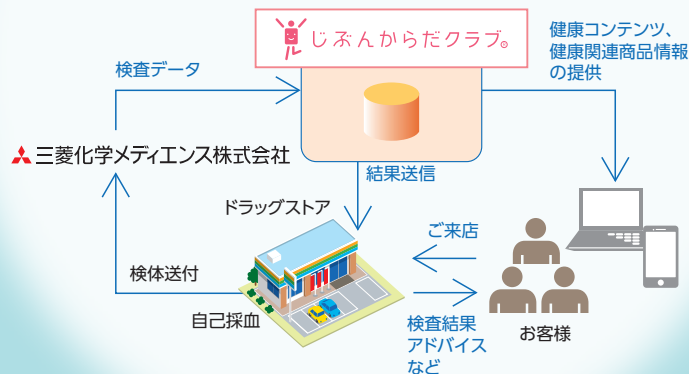
「じぶんからだクラブ」 サービスを開始

本年4月に設立した健康ライフコンパスは、じぶんの健康状態を手軽にセルフチェックできるサービス、じぶんからだクラブを開始しました。

じぶんからだクラブとは、からだの健康状態を知るためのコレステロール値や腎機能といった13項目のセルフチェックができるサービスです。ドラッグストア内で簡単な採血キットを用いて自己採血を行い、その血液サンプルを当社グループの三菱化学メディエンスの検査センターで分析し、1週間程度で検査結果をドラッグストアでお客様にお渡しします。必要に応じて薬剤師や栄養士から一般的な健康アドバイスを受けることができます。

また、ホームページ(<http://www.jibunkarada.jp>)では本サービスの実施店舗のご紹介や健康管理をサポートするさまざまなサービスを提供しています。

「じぶんからだクラブ」サービス概要図



チャレンジ!! KAITEKI 05

低温排熱や太陽光エネルギーを 有効に利用する新素材「AQSOA」

低温で多量の水蒸気を吸収・再生

CO₂排出量の削減が地球全体の課題となるなか、太陽熱や工場排熱などこれまであまり有効に利用されてこなかったエネルギーの利用技術の開発が急がれています。そこで、現在注目を集めているのが、三菱樹脂が開発・量産化に成功した水蒸気吸着材AQSOA(アクソア)です。AQSOAは、低い温度領域でも効率よく水分を吸湿・再生する新しい吸着材です。従来のゼオライトやシリカゲルなどの吸湿材と比べて水蒸気を吸いやすく、放出しやすい特性があります。



「AQSOA」を使った空調機や冷凍機を開発

AQSOAデシカント空調機は、水分を吸着するハニカムローターという部材にAQSOAを用いることで、40℃～80℃というこれまでより低温の熱源を用いて空気中の湿度をコントロールすることが可能になりました。また、AQSOA吸着式冷凍機は、熱交換器にAQSOAを塗布することで、従来は使用しなかった60℃～80℃の低温排熱や太陽熱を利用した省エネ型の吸着式冷凍システムを実現しました。

排ガス触媒市場にも参入

三菱樹脂では、主に自動車のマフラー向けに、窒素酸化物(NO_x)を還元・無害化するため、AQSOAを用いたSCR触媒*を開発しました。200℃の低温領域で優れた浄化性能を発揮可能であり、今後さらなる品質改良に取り組む、国内外での生産・供給体制の整備を進めていきます。

*SCR触媒:NO_xを除去する触媒

ゼオライト系水蒸気吸着材「AQSOA」のここが KAITEKI

省エネ・CO₂削減に貢献

AQSOAを用いたデシカント空調機や吸着式冷凍機は、低温の熱源で稼働するため、今まで利用できなかった工場排熱や太陽エネルギーを有効利用でき、大幅な省エネルギー・CO₂削減効果が期待できます。

空調のノンフロン化、排ガス浄化にも寄与

吸着式冷凍機は水が蒸発する際に熱を奪う“気化熱”の原理を利用するノンフロンの産業用冷凍機です。吸着式冷凍機の熱交換器にAQSOAを塗布することで吸着性能が大幅に向上します。また、AQSOAを用いたSCR触媒は低温領域で自動車の排ガス中のNO_x削減に高い性能を発揮します。

産業界で好評価、さまざまな賞に輝く

新しい水蒸気吸着材AQSOAやAQSOAを用いた吸着式冷凍機は、経済産業省主催第3回ものづくり日本大賞 優秀賞や第60回日本化学技術賞をはじめ、技術関係、環境関係のさまざまな賞を受賞しています。



AQSOA、アクソアは三菱樹脂の登録商標です。

財務諸表の概要

連結貸借対照表

(単位:億円)

科目	当上半期 [平成25年9月30日現在]	前期 [平成25年3月31日現在]
(資産の部)		
流動資産	14,701	14,566
現金・預金	1,194	1,159
受取手形・売掛金	5,731	5,882
たな卸資産	5,708	5,469
その他	2,088	2,075
貸倒引当金	△ 20	△ 19
固定資産	19,033	18,511
有形固定資産	10,939	10,615
投資有価証券	3,487	3,538
のれん	1,943	1,799
その他	2,663	2,557
資産合計	33,735	33,077

Point 1 **資産合計**
資産合計は、主に円高の修正に伴い海外連結子会社の資産の円貨換算額が増加したことにより増加しています。

(単位:億円)

科目	当上半期 [平成25年9月30日現在]	前期 [平成25年3月31日現在]
(負債の部)		
流動負債	12,702	12,537
支払手形・買掛金	3,942	4,169
短期金融債務	6,088	5,455
その他	2,671	2,912
固定負債	8,300	8,506
長期金融債務	6,225	6,532
その他	2,074	1,974
負債合計	21,003	21,044
(純資産の部)		
株主資本	8,539	8,354
資本金	500	500
資本剰余金	3,177	3,176
利益剰余金	4,975	4,790
自己株式	△ 113	△ 112
その他の包括利益累計額	235	△ 199
新株予約権	5	5
少数株主持分	3,951	3,872
純資産合計	12,732	12,033
負債及び純資産合計	33,735	33,077

Point 2 **負債合計**
負債合計は、主に前連結会計年度末日が休日であったことによる営業債務の減少により減少しています。

連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当上半期 [自平成25年4月 1日 至平成25年9月30日]	前上半期 [自平成24年4月 1日 至平成24年9月30日]
売上高	16,115	15,297
売上原価	12,785	12,096
販売費・一般管理費	2,816	2,790
営業利益	513	411
営業外収益	157	113
営業外費用	169	186
経常利益	502	338
特別利益	236	88
特別損失	27	125
税金等調整前四半期純利益	711	301
法人税、住民税及び事業税	233	215
法人税等調整額	48	△ 58
少数株主利益	156	111
四半期純利益	273	33

Point 3 **特別利益**
主に田辺三菱製薬が販売する医薬品の供給価格に関する、国際商業会議所の仲裁裁定に伴う特別利益により増加しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当上半期 [自平成25年4月 1日 至平成25年9月30日]	前上半期 [自平成24年4月 1日 至平成24年9月30日]
税金等調整前四半期純利益	711	301
減価償却費	601	635
たな卸資産	△ 70	△ 61
営業債権債務他	△ 344	72
営業活動によるキャッシュ・フロー	897	948
有形・無形固定資産取得	△ 592	△ 605
有価証券・投資有価証券取得	△ 567	△ 436
その他	518	372
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 641	△ 669
有利子負債	125	△ 303
配当金他	△ 192	△ 206
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 67	△ 510
現金・現金同等物に係る換算差額	116	0
現金・現金同等物の増減	304	△ 230
現金・現金同等物の期首残高	1,531	1,330
新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減	—	3
現金・現金同等物の四半期末残高	1,835	1,103

Point 4 **有価証券・投資有価証券取得**
有価証券・投資有価証券取得は、主にメディカゴ社の連結子会社化及びアクアミット社の完全子会社化により、支出が増加しています。

株式の状況

株式の状況 (平成25年9月30日現在)

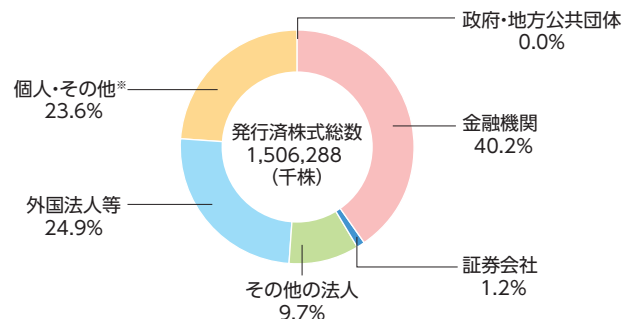
発行可能株式総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	1,506,288,107株
株主総数	181,148名

大株主 (平成25年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	68,507	4.5
明治安田生命保険相互会社	64,388	4.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	52,442	3.4
日本生命保険相互会社	45,969	3.0
株式会社三菱東京UFJ銀行	41,105	2.7
武田薬品工業株式会社	39,044	2.5
東京海上日動火災保険株式会社	32,048	2.1
ザバンク オブ ニューヨーク トリーティー ジャスデック アカウト	25,128	1.6
太陽生命保険株式会社	24,708	1.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	22,056	1.4

※上記のほか、当社が自己株式として31,309千株を保有しておりますが、当該株式については、会社法第308条第2項の規定により議決権を有していません。

所有者別株式分布の状況 (平成25年9月30日現在)



※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(2.0%)が含まれております。

会社概要

会社概要

商号 株式会社三菱ケミカルホールディングス
(英文社名：Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)

本店所在地 〒100-8251
東京都千代田区丸の内一丁目1番1号
(パレスビル)
電話 03-6748-7200

資本金 500億円

取締役 (平成25年9月30日現在)

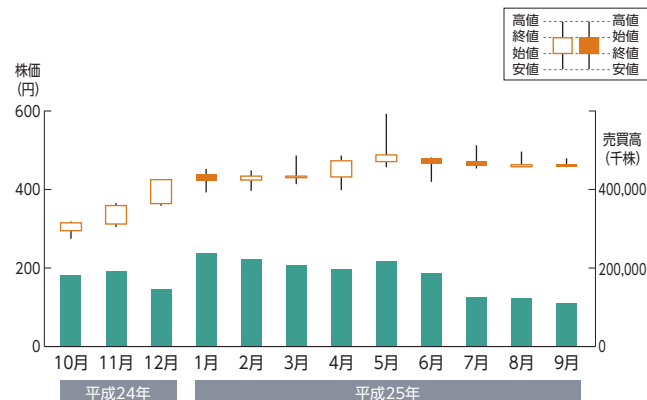
小林 喜光	代表取締役 取締役社長	
吉村章太郎	代表取締役 副社長執行役員	経営管理室、 広報・IR室(IR)分担 グループ基盤強化室 (情報システム、共通基盤強化担当)
津田 登	取締役 専務執行役員	経営戦略室、 広報・IR室(広報)、総務室、 内部統制推進室分担 コンプライアンス推進統括執行役員
石塚 博昭	取締役	
土屋 裕弘	取締役	
姥貝 卓美	取締役	
越智 仁	取締役	
橋川 武郎	取締役	

※橋川武郎氏は、社外取締役であり、また、当社は社外取締役の同氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

配当の状況

1株当たり配当金 (円)			
	平成24年 3月期	平成25年 3月期	平成26年 3月期
中間	5	6	6
期末	5	6	(6)
合計	10	12	(12)

株価・株式売買高の推移 (東京証券取引所)



当社IRサイトをご活用下さい。
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>

当社ホームページでは、プレスリリースや経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用下さい。

三菱ケミカル

監査役 (平成25年9月30日現在)

中田 章	常勤監査役
山口 和親	常勤監査役
西田 孝	常勤監査役
鶴田 六郎	監査役 弁護士
水嶋 利夫	監査役 公認会計士

※西田 孝、鶴田六郎、水嶋利夫の3氏は、社外監査役であり、また、当社は社外監査役の3氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

執行役員 (平成25年9月30日現在)

大平 教義	常務執行役員	人事室長
唐津 正典	常務執行役員	グループ基盤強化室 (製造・レスポンスビルケア、 購買、物流、エンジニアリング 担当)
浦田 尚男	執行役員	グループ基盤強化室 (R&D、知的財産担当)
長田 雅宏	執行役員	経営管理室長
木曾 誠一	執行役員	ヘルスケアソリューション室*長
瀬川 拓	執行役員	中国総代表
田中 良治	執行役員	経営戦略室長 グループ基盤強化室 (エリア戦略、マーケティング、 自動車関連事業推進担当)
二又 一幸	執行役員	CEOオフィス部長

※ヘルスケアソリューション室は平成25年10月1日付でヘルスケアソリューション部に名称を変更しました。

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
- 公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
◎ 公告掲載URL
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
(〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
- 郵便物送付先及び電話お問合せ先 東京都江東区東砂七丁目10番11号
(〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

IR NAVI アイアール ナビ とは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報（IR情報）をよりわかりやすく株主の皆様ナビゲータリング（道案内）していきたいという意味を込めております。

2014年1月1日より
単元株式数を変更いたします。

100株単位での株式の売買が可能となります。

投資家の皆様にとって、より投資しやすい環境を整え、当社株式の流動性の向上及び投資家層のさらなる拡大を図るとともに全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨に鑑み、単元株式数を見直し、2014年1月1日より、単元株式数を500株から100株に変更いたします。

【ご注意】
特別口座をご利用の株主様へ

今回の単元株式数の変更に伴い、100株単位でのお取引が可能となりますが、特別口座に株式をお持ちの株主様がお取引をされる場合は、あらかじめ特別口座から証券会社の口座への振替が必要となります。

特別口座からの振替申請については
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

0120-232-711

(平日 9:00~17:00) までお問合せ下さい。

